

愛知県に伝わる妖怪

夏といえば、怪談すなわち(?)妖怪の季節ですよね。地域には、いろいろな伝説がのこされている場所があります。意外と身近なところに妖怪は潜んでいるかも知れません。みなさんも、愛知県の妖怪に会いに行ってみませんか？

本宮山の山姥

おおあがた

場所:犬山市 本宮山(293m)山頂の大県神社本宮

伝説:

山頂の本宮は古来、身の丈一丈(約3メートル)もある山姥の住まいだったと言い伝えられる。彼女は時々山を下りてきて、麓の鞍ヶ淵のあたりを歩き来する人々に災いをもたらしたそう。文明十六年(1484年)に、羽黒村の鳴海高橋(犬山市)の福富新藏という人が、本宮の本殿で乱れた髪をくしけずっていたところを弓矢で射殺したという。



山頂の本宮。木に阻まれ、周りの景色は見えない。

付記:名鉄小牧線の楽田駅下車、徒歩10分で大県神社に着きます。大県神社は平安時代にまとめられた「延喜神名式」にもその名が記されており、かなり古い歴史を持ちます。なお、「本宮山」は豊川市にもあり、区別するためこちらは「尾張本宮山」と呼ばれるそうです。

問合せ:大県神社社務所 〒484-0834 愛知県犬山市字宮山3番地 TEL 0568(67)1017
FAX 0568(67)3549

恩田の初連

場所:刈谷市恩田町3-30 松雲院

伝説:

松雲院は寺の名。今から200年以上前に、その裏の藪に子連れの子狐の白狐が住んでいた。和尚はこれに初連と名づけ、可愛がっていたという。さて、当時の刈谷藩主は寺に伝わる茶釜で入れた茶を飲むために、しばしば松雲院



恩田の松雲院。



恩田稲荷尊天の像。

を訪れていた。そのたびに家来が初連の子をかかったので、初連は殿様を恨み、ある時仲間とともに嫁入り行列に化けて、殿様の縁談をぶち壊した。それがきっかけで彼は国替えになってしまい、恩田にいられなくなった初連は、箱根の山奥へと逃げていったという。しかし、明治維新前後に松雲院に戻り、罪を償う意味も込めて、これからは万人の幸福と土地の発展のために力を尽くすことを誓ったそう。初連は恩田稲荷尊天として、今でも松雲院境内に祀られており、地元の信仰を集めているらしい。

付記:名鉄名古屋本線の一つ木駅より、徒歩15分で行くことができます。

問合せ:刈谷市役所 TEL 0566(23)1111

松雲院 刈谷市恩田町3-30

村積山山頂の殺生石

場所:岡崎市村積山(むらづみやま)山頂

伝説:

九尾の狐をご存知だろうか。高井蘭山「絵本三国妖婦伝」という江戸時代の小説(ただし、和漢の古書や伝説から取材しているらしい)によると九尾の狐は、古代、中国の殷や周、南インドの耶羯陀国などで王を狂わせ国を滅ぼした後、日本にやってきた。数百年人々を惑わしながら諸国を転々とし、堀川院の時代に玉藻前として院に巧みに取り入ったが陰陽師に正体を見破られ、逃げた光の那須野で人々を喰い殺し悪事をはたらいたために討伐されたという。その屍は大きな石に変わり、怨念から毒が発生し、二百数十年もの間、この殺生石に近づいた者はことごとく死んだ。国中の名僧たちが調伏しようとして倒れる中、玄翁という和尚が祈祷の後に杖で殺生石を杖でたたくと、石は砕け散り、ようやく狐の霊は成仏した・・・



鍋田玉英『怪物画本』より、「玉藻前」



人が来ないように柵で囲まれた殺生石。

さて、この時砕け散った殺生石の欠片は各地に散らばったらしい。愛知県岡崎市にある村積山の山頂にもそのうちの一つらしきものがあり、高さ1メートルほどの、まるで木の節目のような模様が入った板状の石だ。昔、猟師がこの石の付近で動物がばたばた死ぬのを見たとか、触れた人が即座に病で倒れ、死にかけてたという話もあるらしい。

付記:名鉄本線東岡崎駅より名鉄バス奥殿陣屋行きに乗り、奥殿陣屋バス停で降りるのが近いようです。

問合せ:岡崎市役所観光課 TEL 0564(23)6216

他にも、様々な伝承が残る場所は存在するでしょう。調べて、行ってみるのもおもしろいかもしれませんね。

・・・妖怪は、その場所の雰囲気と共に現れるのですから・・・

〈今回の場所〉



本宮山の山姥



恩田の初連



村積山の殺生石



参考:村上健司「妖怪Walker」 木暮正夫「全国怪談スポット②」

文責:ウナム

うーん。電車の駅に流れている「ピーンポーン」というチャイムは、目が見えない人のためのもの。というのは？実際に地下鉄などに書かれているところもあるので、雑学と言えるかは微妙な所です。(松カツ)